

＜開催趣旨＞ 5・19集会—今求められる市民・ジャーナリストの対話

—戦争法案可決強行を阻み、安倍政治の企みを粉碎しよう—

安倍政権は、日本を「自分の国は自分の手で守る国」へとつくり変えるために、9条改憲で現行憲法を壊し、次いで自主憲法を制定、「戦後レジーム」を終わらせると、かねてから公言してきましたが、アメリカの主導する「有志連合」による「イスラム国」掃討戦が長引き、日本にもそこへの参加が求められる状況が出現したのに伴い、急速に日本の戦争体制整備を進めだしました。その行き着くところは、アメリカが世界中で進める戦争への参加に応じ、戦争の実績を残したのち、そうした世界の新しい現実により9条を持つ憲法がそぐわなくなったと強弁、念願の壊憲・自主憲法制定を果たそう、というものです。

集団的自衛権行使容認、日米防衛協力新ガイドライン合意、沖縄・辺野古の米軍新基地建設強行などの勢いは凄まじく、さらに「イスラム国」に捉えられたジャーナリスト・後藤健二さんを見殺しにしたうえで、「テロに屈しない。罪は償わせる」と見栄を切った安倍首相は、テロと戦うアメリカとの結束を誓う強硬姿勢を誇示、猛スピードで「戦争法案」制定の準備を整え、5月連休中に訪米、米上下両院合同会議での演説、オバマ大統領との会談に臨みました。首相帰国後の政府は、米軍以外の国への支援も含み、地球上至るところに派兵を行うため、新たな恒久法・国際平和支援法案と、自衛隊の運用に関連する10の既存法改正案とを、通常国会の残り会期で一括採決、戦争法制を完成させようとしています。この政権に明年参院選で3分の2以上の議席を許せば、改憲は現実のものとなります。

無視できないのは、これらの動きに加え、安倍政権が干渉と懐柔の手をメディアの世界に露骨に突っ込んでくるようになり、メディアの側に、自粛や迎合がはびこる事態が生じている点です。従軍慰安婦誤報問題をめぐる朝日バッシング、総選挙直前の自民党幹部名による在京キー局責任者宛の「選挙報道における公平中立・公正」順守の要請文発出、後藤健二さんの死後、シリアへ戦争取材に赴こうとしたフリー・カメラマン、杉本祐一さんの旅券取りあげ、テレ朝「報道ステーション」で安倍批判を行った元通産官僚、古賀茂明さんの降板事件、自民党によるテレ朝・NHKの聴聞強行など、憂慮すべき事例は枚挙するに暇がありません。これではメディアの現場は、深刻な閉塞に覆われてしまいます。

メディアとジャーナリズムに携わる私たちは今、このような状況に臨み、実際に現場で健闘している仲間と、護憲、沖縄支援、反原発、震災復興、労働運動など、各持ち場でたたかっておられる市民の方がたと、ともに一堂に会し、話し合う機会をつくりたいと考えました。私たちの仲間には現場の実態と問題を報告してもらい、市民のみなさんからはそれぞれの立場からのメディアへの不満、要望などをおうかがいしたいと思います。その対話を通じて、安倍政権の「暴走」を食い止めるために、一緒になにをなすべきか、できるかを、見出したいと考えます。広範な市民運動の分野で活動しているみなさん、それにメディアの現場で働く仲間たち、多くの方がたのご参加をお待ちいたします。

(マスコミ九条の会・20150507)

<プログラム> **5・19集会—今求められる市民・ジャーナリストの対話**
戦争法案可決強行を阻み、アベ政治の企みを粉碎しよう

主催：マスコミ九条の会・日本ジャーナリスト会議（JCJ）・社会思想史研究会
賛同：新聞OB九条の会・出版OB九条の会・映画人九条の会・民放九条の会・
マスコミ文化九条の会所沢・「憲法九条にノーベル平和賞を」の会（印刷）

戦争に絡め取られたアメリカの矛盾に乗じ、その支援を装いつつ、日本を再び戦争する国へとつくり変え、戦後史を抹殺しようとする安倍政権は、もうその存続自体が許されるものではありません。この政権を放置すれば、現行憲法は破壊され、平和主義と立憲主義に背く「自主憲法」が出現、先に施行された秘密保護法も、国民を軍事機密保護に縛りつける公安維持・防諜法として使われ、国内も暗黒に覆われる末路に行き着きます。このような「アベ政治」の暴走を阻止し、世界史の新しい方向への転換を促せる日本を取り戻すために、メディアは今、市民とともになにをすべきか、なにができるかを、話し合いたいと思います。討論を通じて、安倍政権を確実に退陣へ追いやる道筋を見出しましょう。

1. 開催日時：5月19日（火）

<開場>18時 <開会>18時30分 <閉会>21時(予定)

2. 会場：麴町 エデュカス東京 7階ホール

(千代田区二番町 12-1 全国教育文化会館)

<最寄り駅>東京メトロ有楽町線「麴町駅」3分

「市ヶ谷駅」(JR、地下鉄南北線・都営新宿線)7分

マスコミ九条の会連絡先：事務局長・三枝和仁 電話 090-8580-6307

3. パネリスト（発言順・敬称略）

新崎盛吾（あらさき・せいご。日本新聞労働組合連合・委員長）

寺川 徹（てらかわ・とおる。出版労連教科書対策部長）

永田浩三（ながた・こうぞう。武蔵大学教授・元NHK番組制作ディレクター）

金平茂紀（かねひら・しげき。テレビ・ジャーナリスト）

島 洋子（しま・ようこ。琉球新報東京支社・報道部長）

コーディネーター：マスコミ九条の会呼びかけ人・桂 敬一

4. 進行

(1)18時30分—18時35分：開会挨拶 河野慎二 マスコミ九条の会企画担当

(2)18時35分—19時50分：第1セッション＝リレートーク

各パネリストに15分ずつ、暴走する「アベ政治」とその批判に取り組むメディア現場の実情・問題を報告していただき、読者・視聴者への要請もお聞かせいただく。

—————休憩 10分—————

(3)20時00分—20時55分：第2セッション＝フロアからの発言も交えての討論

(4)20時55分—21時(予定)：閉会あいさつ・インフォメーション

以上